
幹部学校航空研究センターの新設に思う

航空教育集団司令官
空将 廣中 雅之

航空研究センターの新設、おめでとうございます。併せて、幹部学校が創設60周年を迎えられることに対し心より祝意を表します。また、航空研究センターの新設に際し、寄稿させていただけることを、大変、光栄に思います。

私は、幹部学校創設50周年の翌年、幹部学校副校長として短い期間でしたが勤務をしました。在任期間中、幹部学校創設50周年史の編集や航空自衛隊ドクトリンの策定に直接携わったことを懐かしく思い出します。幹部学校創設50周年記念史にも寄稿していただきましたが、歴代幹部学校長の一人山口利勝元空将から「幹部学校研究部は、そもそも大戦略の研究等を行うことを任務として組織されたはずであるが、その活動は指定研究、自主研究及び教範作成のみにとどまり、航空自衛隊が準拠すべき航空戦略やドクトリン研究等については、ほとんど成果が見られていない。幹部学校研究部は、長期的な見積りに基づき航空防衛力の将来方向を見定め、また、その運用法の指標となる大戦略や軍事戦略、作戦及び戦術について継続的に研究し、航空自衛隊の防衛力整備及び教育訓練等に反映させる役割をしっかりと果たすべきである。」と厳しいご指摘を受けたことがあります。幹部学校に奉職している者として、誠に忤^{じく}忤^じたるものがありましたが、今日、関係者の多大な努力の結果、航空自

衛隊の各機関、部隊の研究機能を集約して航空研究センターが新設されることとなり、ようやく念願だった大先輩の問題提起に応え得る環境が整ったと感慨深く思っています。

今後、幹部学校における研究業務は、ますますその重要性を増すと思います。近年、安全保障問題の重要性について、徐々に国民の皆様の理解が進んでおり、昨年末には国家安全保障会議（NSC）が創設され、軍事的合理性を国家政策に反映させることができる環境が整いつつあります。また、先般、閣議決定された「国家安全保障戦略」にも、我が国がとるべき国家安全保障上の戦略的アプローチとして、知的基盤の強化が挙げられています。今こそ、軍事戦略、航空作戦に関する確たる理論を構築して発信し、国家政策に反映させる道筋を付けていくことが求められていると考えます。その意味において、ドクトリン研究、戦略理論研究及び事態対処研究の3つを主要テーマとして研究し、各研究業務の総括及び研究成果の管理並びに对外発信の機能を備えた航空研究センターが新設されることは、誠に時宜にかなっていると思います。

幹部学校航空研究センターが、世界に冠たる米空軍大学ドクトリン・センターと同様に、軍事戦略、航空作戦にかかる専門的研究機関として、国内外で確固たる地位を築くまでには、多くの研究成果の蓄積、情報発信及び他研究機関との交流等を継続して進めなければなりません。そのためには、長い時間をかけての地道な努力が必要不可欠だと確信していますが、志高く英知あふれる幹部学校長を中心として航空研究センター所属全隊員が一丸となって邁進まいされることを願ってやみません。航空自衛隊幹部学校が、今後とも優れた人材を輩出する航空自衛隊の最高学府として、また、日本を代表する軍事戦略、航空作戦に関するシンクタンクとして、次の時代に向かって、ますます、発展されんことを心より祈念します。後輩諸君の健闘を期待します。